

2024 年度 個人研究実績・成果報告書

2025 年 4 月 6 日

所属	商経学部	職名	教授	氏 名	谷川 喜美江
研究課題	格差是正のための税制構築に関する研究				
研究キーワード	格差、消費税、所得税	当年度計画に対する達成度	2.順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が達成できた		
関連するSDGs項目	8. 働きがいも経済成長も	該当なし	該当なし	該当なし	
1. 研究成果の概要 近年、我が国では格差是正が課題となっている。特に消費税においては、消費税率が 10%に引き上げた際、低所得者ほど所得に占める消費税の負担割合が高くなる逆進性対策として複数税率制度を導入した。しかしながら、本制度には複数の課題が指摘されているところである。また、適正な納税を促すために導入した消費税のインボイス制度は、会計や税務に関する知識が乏しい納税者にとって、税務申告等手続や取引からの排除等の課題も生じている。 そこで、本研究では、我が国の格差の現状を把握するとともに、我が国への消費税の還付制度導入に関し研究を行い、複数の学会で報告を行った。 2. 著書・論文・学会発表等 【著書・論文（査読なし）】 ・「消費税還付制度に関する研究」谷川喜美江、単著、『会計学の新展開』143-147 頁、2025 年 3 月 【学会発表等】 ・『我が国における消費税の逆進性緩和策に関する検討—モンゴルの EBarimt を参考にして—』日本計画行政学会 第 47 回全国大会、2024 年 9 月、愛知大学 ・『消費税における給付付き税額控除に関する研究』日本税務会計研究学会第 36 回全国大会、2024 年 10 月、青山学院大学 3. 主な経費 ①我が国及び諸外国における格差及び消費税制度研究のために図書を購入した。 ②他研究者の研究動向を探るとともに意見聴取のための学会及び研究会参加のための年会費及び参加費、旅費を支出した。 4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等） (本文は2ページ以内にまとめること)					